

平成27年5月14日

(問い合わせ先)
〒514-8570 三重県津市広明町13番地
三重県戦略企画部企画課
(担当)：行方、天野
Tel059-224-2025 fax059-224-2069
e-mail: kikakuk@pref.mie.jp

第4回みえ県民意識調査の集計結果 ～県民の皆さんの幸福実感を調査しました～

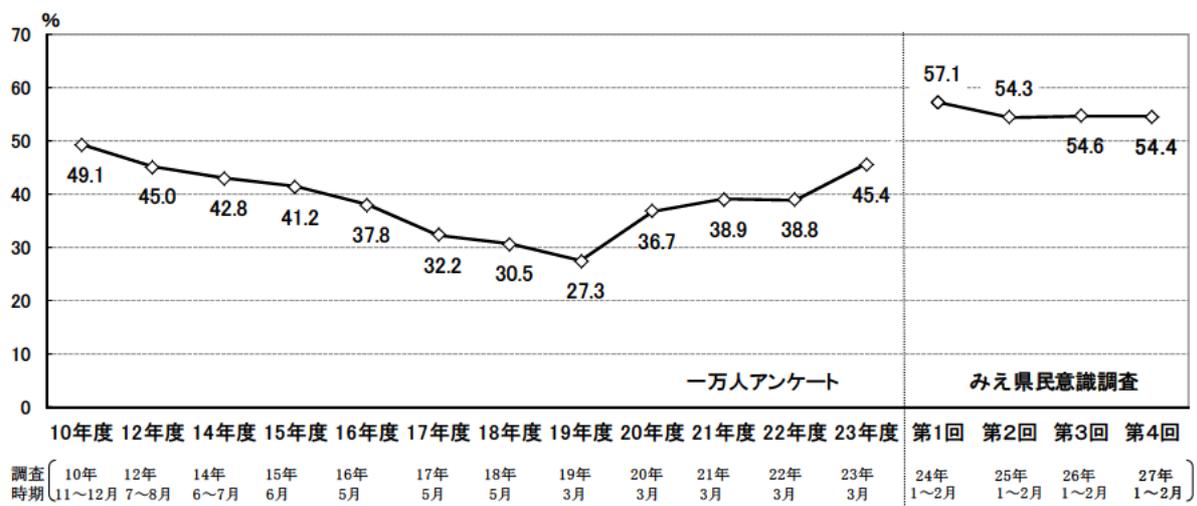
県では、「みえ県民カビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、平成27年1月から2月にかけて実施した「第4回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

調査の概要

- 1 調査期間 平成27年1月～2月
- 2 調査方法 県内に居住する20歳以上の男女10,000人に対する郵送アンケート
- 3 有効回答数 5,444人 (有効回答率 54.4%)

図表1 有効回答率の推移



4 調査項目

- ・ 幸福感
- ・ 地域や社会の状況についての実感
- ・ ご家族に関すること
- ・ 仕事や収入に関すること
- ・ お住まいの地域に関すること

集計結果（概要）

1 幸福感

報告書 5～7頁

(1) 日ごろ感じている幸福感

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています

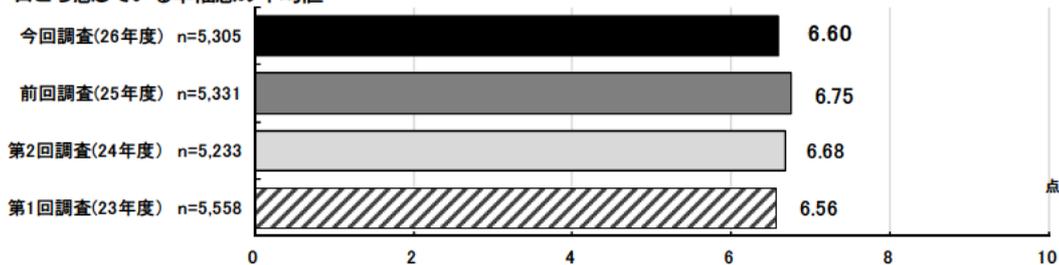
県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、平均値は6.60点で、第1回調査より0.04点高くなっていますが、前回調査より0.15点、第2回調査より0.08点それぞれ低くなっています。

点数の分布をみると、「8点」の割合が22.2%と最も高く、次いで「5点」（19.4%）、「7点」（18.6%）となっており、M字型となっています。

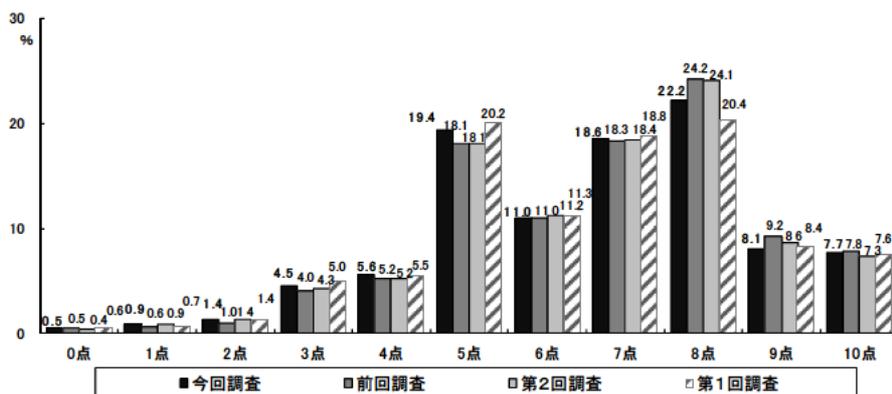
前回調査と比べると、「8点」の割合が2.0ポイント、「9点」の割合が1.1ポイントそれぞれ低く、「5点」の割合が1.3ポイント、「7点」の割合が0.3ポイントそれぞれ高くなっています。

第1回調査と比べると、「8点」の割合が1.8ポイント高く、「5点」の割合が0.8ポイント低くなっています。

図表2 日ごろ感じている幸福感の平均値



図表3 日ごろ感じている幸福感の分布



図表4 (参考)国及び他県における類似の調査結果(「幸福感」を10点満点で尋ねる調査)

調査名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
秋田県 県民意識調査			5.7点 (H23.6)	5.6点 (H24.6)	5.7点 (H25.6)	5.7点 (H26.6)
山形県 県政アンケート調査					6.34点 (H25.7)	6.19点 (H26.7)
福岡県 県民意識調査			6.44点 (H23.10)	6.48点 (H24.10)	6.59点 (H25.7)	6.46点 (H26.6)
内閣府 国民生活選好度調査	6.47点 (H22.3)	6.46点 (H23.3)	6.41点 (H24.3)			

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

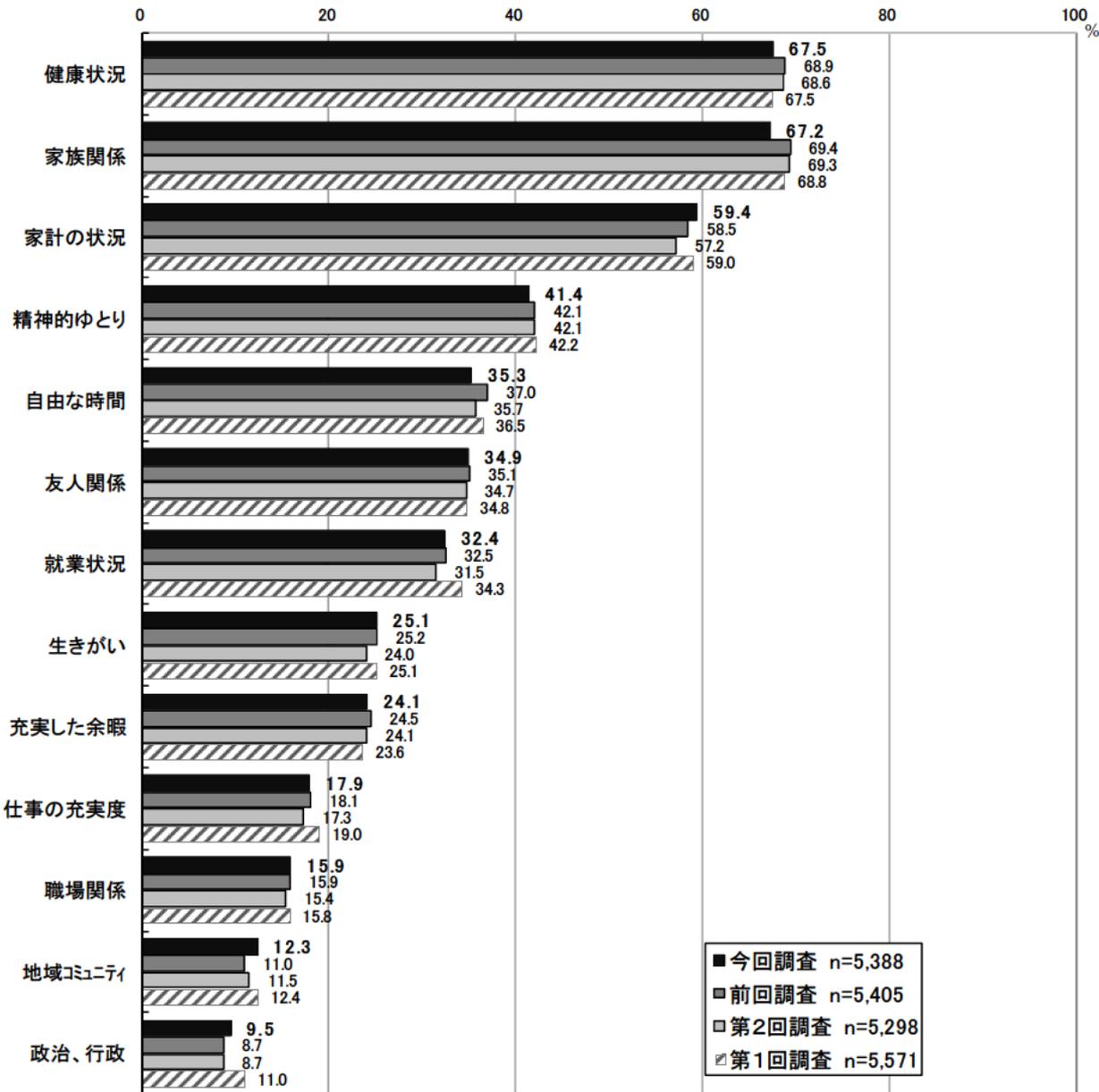
幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

※第1回調査から継続して質問しています

幸福感を判断する際に重視した事項は「健康状況」の割合が67.5%で最も高く、次いで「家族関係」(67.2%) 次いで、「家計の状況 (所得・消費)」(59.4%) となっています。

前回調査までの3回の調査では「家族関係」が最も高くなっていましたが、今回調査では「健康状況」が最も高くなりました。「健康状況」と「家族関係」を除くと、前回調査の順位から変動はありません。

図表5 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)



(3) 幸福感を高める手立て

あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

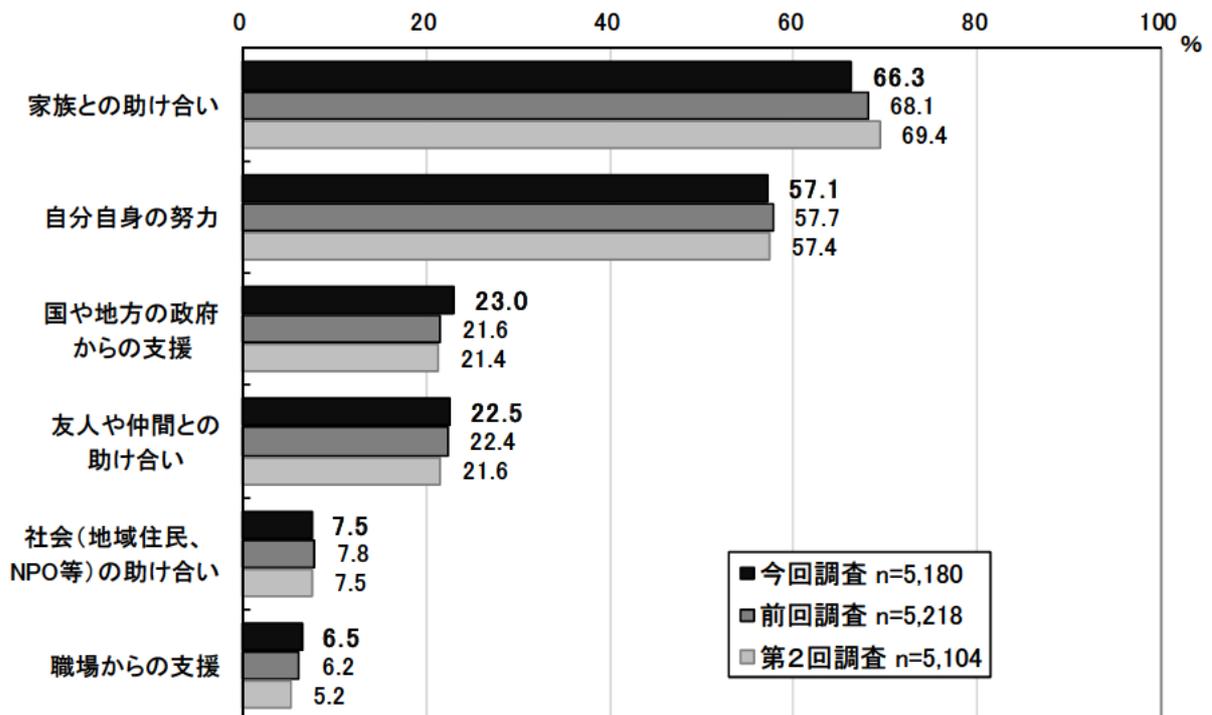
※第2回調査から継続して質問しています

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が66.3%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.1%)、「国や地方の政府からの支援」(23.0%)となっています。

前回調査との比較では、「家族との助け合い」が1.8ポイント、「自分自身の努力」が0.6ポイントそれぞれ低くなった一方、「国や地方の政府からの支援」が1.4ポイント高くなり、順位も前回の4位から3位になっています。

「国や地方の政府からの支援」が「友人や仲間との助け合い」と入れ替わったことを除くと、前回調査及び第2回調査の順位から変動はありません。

図表6 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕



2 地域や社会の状況についての実感

「地域や社会の状況についての実感」は、平成24年度に策定した「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した16の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。
 - (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
 - (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じますか。
 - (4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
 - (5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。
 - (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。
 - (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
 - (8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。
 - (9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。
 - (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
 - (11) 文化芸術や地域の歴史等について学び親しむことができると感じますか。
 - (12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
 - (13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
 - (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
 - (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
 - (16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。
- () 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。
 1 感じる 2 どちらかといえば感じる
 3 どちらかといえば感じない 4 感じない 9 わからない

『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(12)三重県産の農林水産物を買いたい」が84.5%で最も高く、次いで「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(72.4%)、「(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(62.8%)の順で、これまでの4回の調査を通じて同順位となっています。

『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が65.5%で最も高く、次いで「(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている」(59.9%)、「(1)災害等の危機への備えが進んでいる」(57.9%)の順で、第2回調査以降は同順位となっています。

前回調査との比較

前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは16項目のうち6項目で、増加幅が最も大きかったのは「(16)道路や公共交通機関等が整っている」(+2.8ポイント)、次いで「(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(+1.3ポイント)、「(1)災害等の危機への備えが進んでいる」(+1.0ポイント)となっています。また、低くなったのは9項目で、減少幅が最も大きかったのは「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(-4.5ポイント)、次いで「(13)県内の産業活動が活発である」(-2.5ポイント)、「(11)文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる」(-1.3ポイント)となっています。

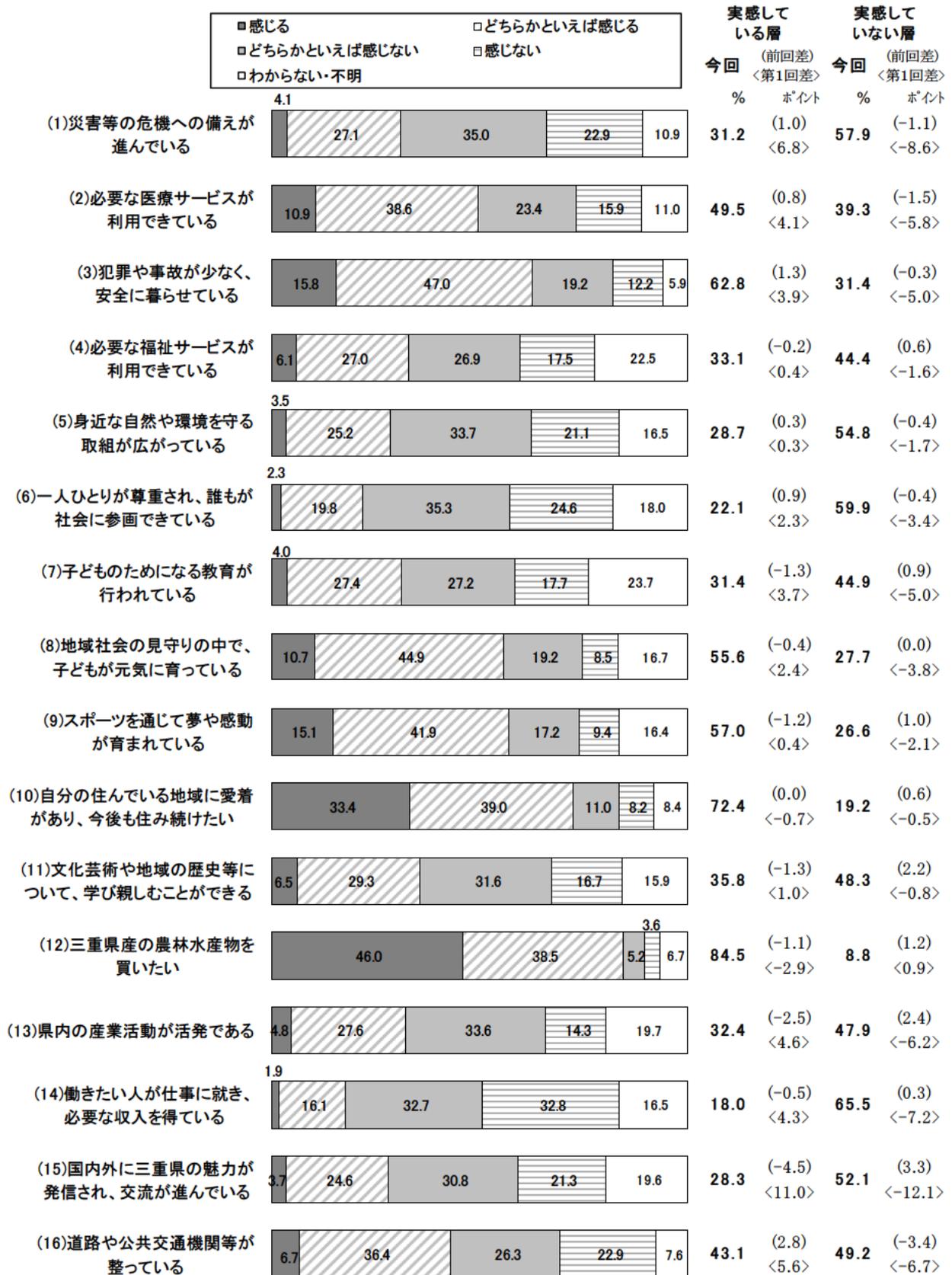
一方、『実感していない層』の割合が低くなったのは16項目のうち6項目で、「(16)道路や公共交通機関等が整っている」(-3.4ポイント)の減少幅が最も大きくなっています。また、高くなったのは9項目で、「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+3.3ポイント)の増加幅が最も大きくなっています。

第1回調査との比較

第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは16項目中14項目で、増加幅が最も大きかったのは「(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+11.0ポイント)、次いで「(1)災害等の危機への備えが進んでいる」(+6.8ポイント)、「(16)道路や公共交通機関等が整っている」(+5.6ポイント)、「(13)県内の産業活動が活発である」(+4.6ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合は「(12)三重県産の農林水産物を買いたい」(+0.9ポイント)を除く15項目で第1回調査より低くなっています。

図表7 地域や社会の状況についての実感（一覧）



※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 ※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出

3 ご家族に関すること

報告書 54～55 頁

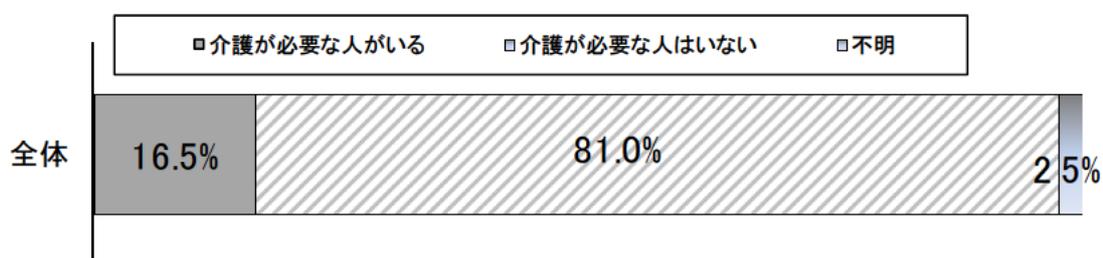
(1) 介護が必要な家族の有無

現在、あなたをふくめて、ご家族のうち、介護が必要な方はいますか。

※新規の質問です

介護が必要な方の有無を質問したところ、「介護が必要な人がいる」の割合が 16.5%、「介護が必要な人はいない」が 81.0%で、「介護が必要な人はいない」の割合が高くなっています。

図表8 介護が必要な家族の有無



報告書 58～59 頁

(2) 近所付き合いや地域での活動の状況

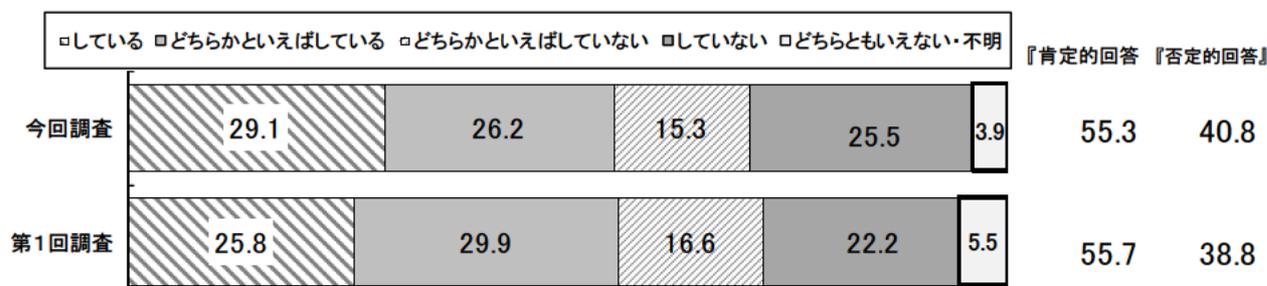
あなたは、日ごろ、ご近所付き合いや地域での活動（自治会、青年団、子供会など）をされていますか。

※第1回調査でも質問しています

近所付き合いや地域での活動の状況を質問したところ、「している」と「どちらかといえばしている」を合計した『肯定的回答』の割合が 55.3%で、「していない」と「どちらかといえばしていない」を合計した『否定的回答』の割合（40.8%）より 14.5 ポイント高くなっています。

第1回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が 0.4 ポイント低く、『否定的回答』の割合は 2.0 ポイント高くなっています。

図表9 近所付き合いや地域での活動の状況



4 仕事や収入に関すること

報告書 64～65 頁

(1) 働くにあたって重視すること

あなたが働く（収入のある仕事をする）にあたり、最も重視することは何ですか。あなたのお考えにもっとも近いものに2つまで○をつけてください。現在働いている方も、そうでない方も、全員お答えください。

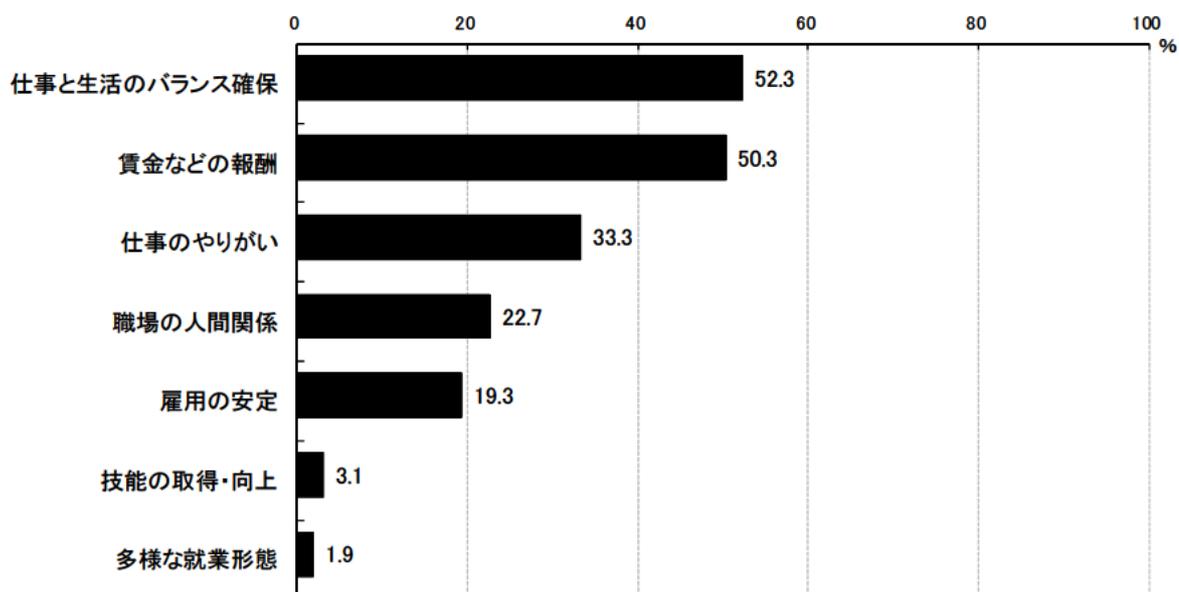
※新規の質問です

働くにあたって重視することについて質問したところ、「仕事と生活のバランス確保」の割合が52.3%と最も高く、次いで「賃金などの報酬」(50.3%)、「仕事のやりがい」(33.3%)となっています。

○属性や属性項目における主な特徴は次のとおりです。（※統計的有意性は未確認）

- ・女性は「仕事と生活のバランス確保」が男性より14.8ポイント、「職場の人間関係」が10.3ポイントそれぞれ高く、「賃金などの報酬」が8.4ポイント、「仕事のやりがい」が10.3ポイントそれぞれ低い。
- ・正規職員は「賃金などの報酬」が全体より13.3ポイント高く、主な職業別では最も高い。
- ・専業主婦・主夫は「仕事と生活のバランス確保」が全体より15.8ポイント高く、主な職業別では最も高い。
- ・学生は「仕事のやりがい」が50.0%で最も高く、次いで「賃金などの報酬」(43.8%)、「職場の人間関係」(38.8%)の順。
- ・40歳代は「賃金などの報酬」が全体より7.1ポイント高く、年齢別では最も高い。

図表10 働く際に重視すること



(2) 生活費の不足感

あなたは、生活費が足りないと感じる時がありますか。

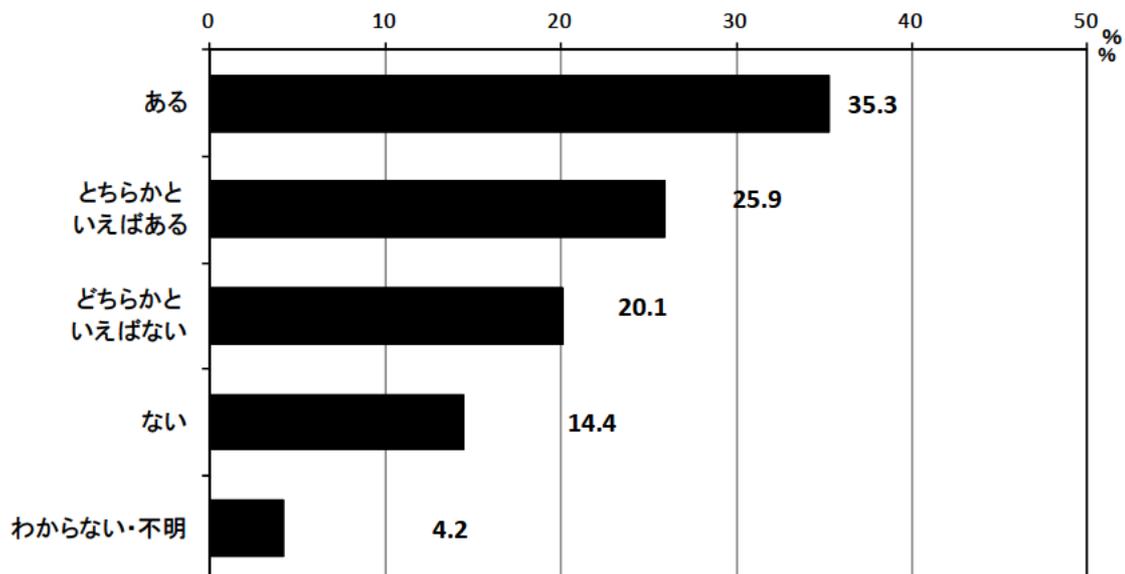
※新規の質問です

生活費が足りないと感じる時があるかを質問したところ、「ある」が 35.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばある」(25.9%)、「どちらかといえばない」(20.1%)、「ない」(14.4%)となっています。「ある」と「どちらかといえばある」の「不足を感じる層」が 61.2%で「どちらかといえばない」と「ない」の「不足を感じない層」(34.5%)を 26.7 ポイント上回っています。

○属性や属性項目における主な特徴は次のとおりです。(※統計的有意性は未確認)

- ・年代別では、40 歳代の「不足を感じる層」の 69.1%が最も高く、次いで 30 歳代 (67.3%)、50 歳代と 60 歳代の 60.8%の順。
- ・主な職業別では、パート・バイト・派遣の「不足を感じる層」の 75.1%が最も高く、次いで正規職員 (59.8%)、無職 (59.2%) の順。
- ・世帯類型別では、二世帯世帯の「不足を感じる層」の 65.5%が最も高く、次いで三世帯世帯 (63.7%)、単独世帯 (56.1%) の順。
- ・世帯収入別では、100 万円未満の層の「不足を感じる層」の 76.9%が最も高く、次いで 100～200 万円未満 (74.7%)、200～300 万円未満 (70.9%) の順。

図表 11 生活費の不足感



5 お住まいの地域に関すること

報告書 74～75 頁

(1) 地域の住みやすさ

あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

※第1回調査から継続して質問するとともに、23年度までの一万人アンケートにおいても継続して質問しています

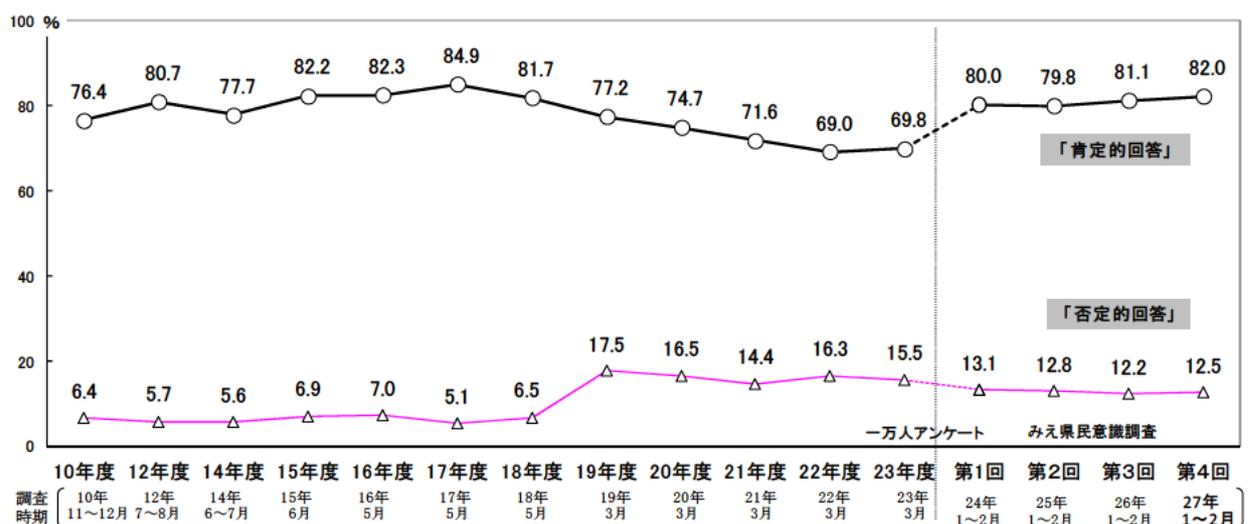
お住まいの地域が住みやすいかについて質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した『肯定的回答』の割合が82.0%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計した『否定的回答』の割合（12.5%）より69.5ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が0.9ポイント、『否定的回答』が0.3ポイントそれぞれ高くなっています。

第1回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が2.0ポイント高く、『否定的回答』が0.6ポイント低くなっています。

地域の住みやすさについての意識は一万人アンケート（平成10年度～23年度実施）から継続して調査しています。一万人アンケートの結果を含む推移は以下のとおりです。

図表 12 （参考）一万人アンケート（23年度まで）とみえ県民意識調査の「地域の住みやすさ」の推移



※一万人アンケートの「肯定的回答」…「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計したもの。

※一万人アンケートの「否定的回答」…「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計したもの。

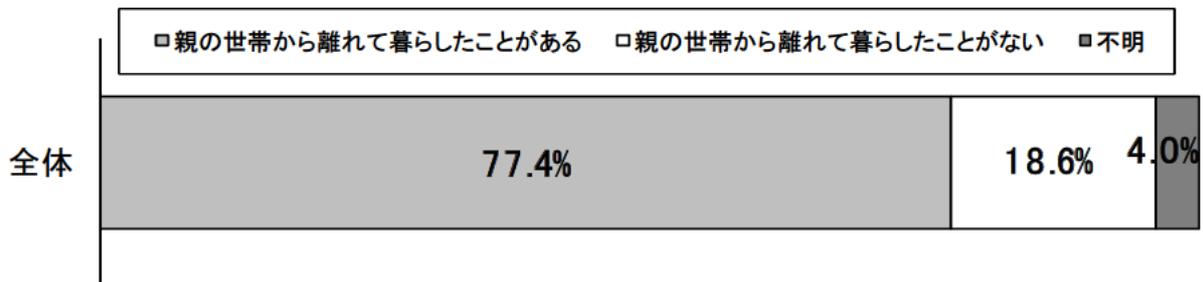
(2) 親の世帯から離れた経験・居住地・理由

あなたは、生まれてからこれまでに親の世帯から離れて暮らしたことはありますか。

※新規の質問です

親の世帯から離れて暮らした経験を質問したところ、「親の世帯から離れて暮らしたことがある」の割合が77.4%で、「親の世帯から離れて暮らしたことがない」(18.6%)より58.8ポイント高くなっています。

図表 13 親の世帯から離れて暮らした経験



(「親の世帯から離れて暮らしたことがある」と回答した方に)

親の世帯から初めて離れた直後の居住地は県内・県外のどちらですか。

※新規の質問です

「親の世帯から離れて暮らしたことがある」と回答した方に、親の世帯から初めて離れた直後の居住地が三重県内か三重県外かを質問したところ、「三重県外」の割合が50.0%で、「三重県内」(48.0%)をわずかに上回っています。

図表 14 親の世帯から離れた直後の居住地



(「親の世帯から離れて暮らしたことがある」と回答した方に)

親の世帯からはじめて離れた理由は何ですか。

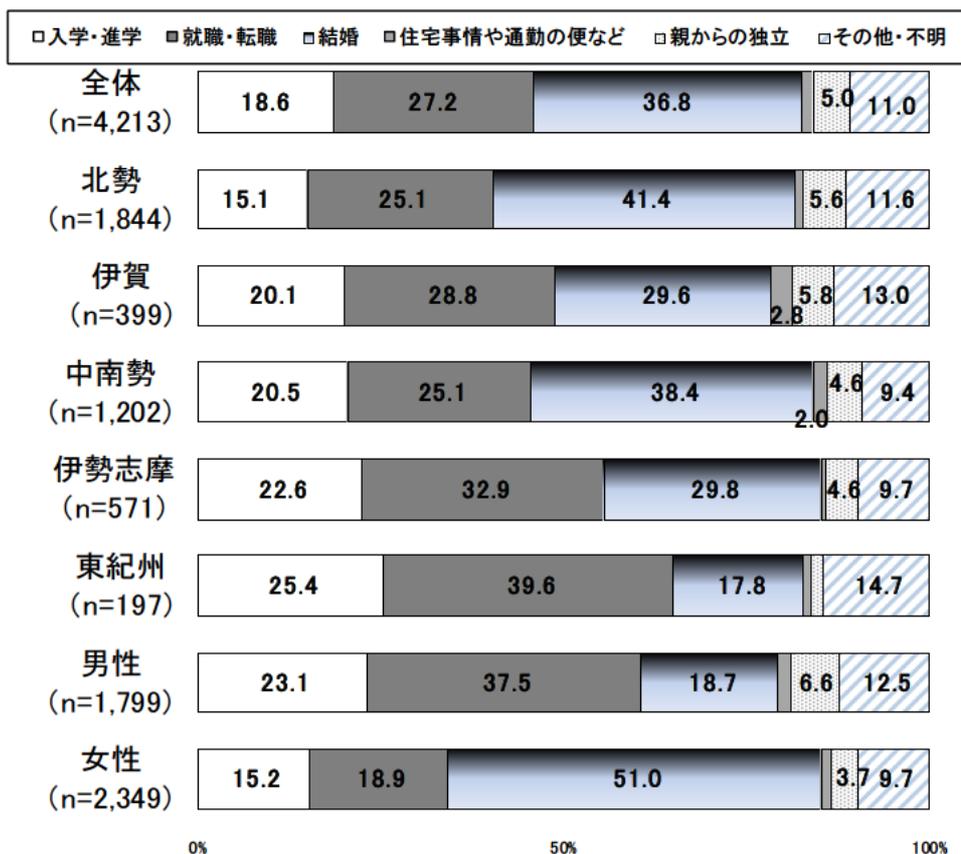
※新規の質問です

「親の世帯から離れて暮らしたことがある」と回答した方に、親の世帯から初めて離れた理由を質問したところ、「結婚」の割合が36.8%と最も高く、次いで「就職・転職・転勤など」(27.2%)、「入学・進学」(18.6%)となっています。

○属性や属性項目における主な特徴は次のとおりです。(※統計的有意性は未確認)

- ・東紀州は「入学・進学」(25.4%)と「就職・転職・転勤など」(39.6%)が地域別で最も高く、「結婚」(17.8%)と「親からの自立・独立」(1.5%)が地域別で最も低い。
- ・伊勢志摩は「入学・進学」(22.6%)と「就職・転職・転勤など」(32.9%)が地域別で東紀州に次いで高い。
- ・北勢は「結婚」が41.9%で、地域別で最も高い。
- ・女性は「結婚」が51.0%で、男性より32.3ポイント高い。
- ・男性は「就職・転職・転勤など」が37.5%で、女性より18.6ポイント高い。
- ・主な職業別では、専業主婦・主夫の「結婚」(56.2%)が最も高く、次いでパート・バイト・派遣(47.1%)、自営業・自由業(29.0%)の順。

図表 15 親の世帯から離れた理由



(3) 引越前の居住地・引越理由

あなたは、現在の場所にずっとお住まいですか、それとも引っ越してきましたか。

※新規の質問です

引越前の居住地を質問したところ、「同一市内の他地域」の割合が25.0%と最も高く、次いで「県内の他市町」(23.9%)、「ずっと同じ場所に住んでいる」(20.2%)となっています。

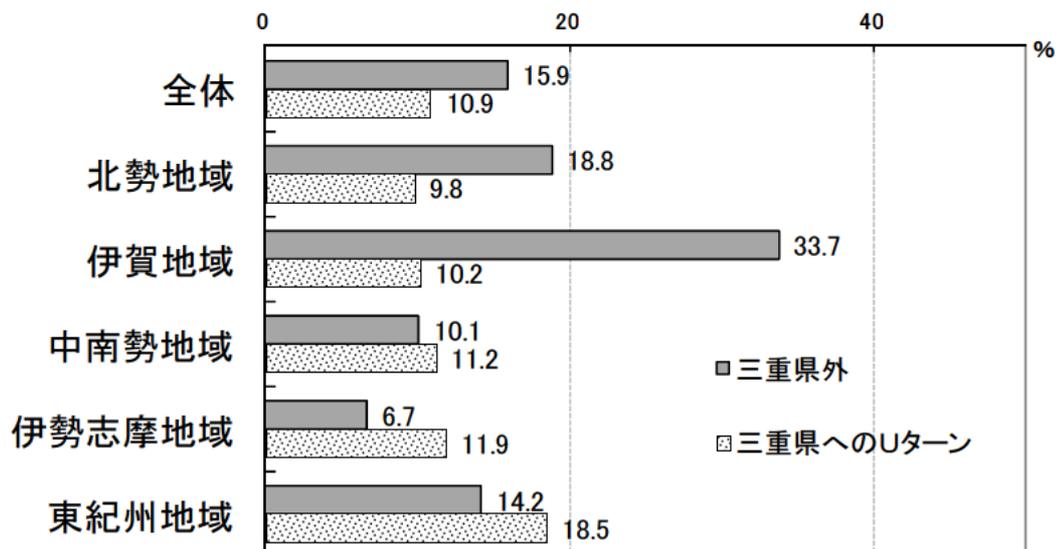
図表 16 引越前の居住地



○引越前の居住地が「三重県外」、「三重県へのUターン」と回答した方の地域別の特徴
(※統計的有意性は未確認)

- ・伊賀は「三重県外」が県全体より17.8ポイント、北勢は2.9ポイントそれぞれ高い。
- ・伊勢志摩は、「三重県外」が県全体より9.2ポイント、中南勢は5.8ポイントそれぞれ低い。
- ・東紀州は「三重県へのUターン」が県全体より7.6ポイント高く、地域別では最も高い。

図表 17 「三重県外」、「三重県へのUターン」の特徴(地域別)



(引越の経験がある選択肢を回答した方に)

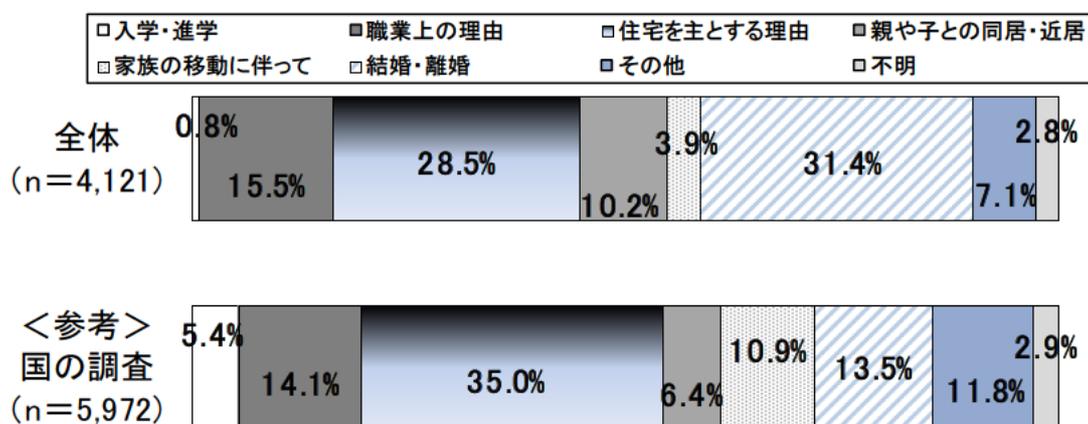
現在お住まいの場所に引っ越してこられた主な理由は何ですか。

※新規の質問です

引越の経験がある方に、現在のお住まいへ引っ越した理由を質問したところ、「結婚・離婚」の割合が31.4%と最も高く、次いで「住宅を主とする理由」(28.5%)、「職業上の理由」(15.5%)となっています。

調査方法が同一でないことから単純な比較はできませんが、国の調査では、「住宅を主とする理由」が35.0%と最も高く、次いで「職業上の理由」(14.1%)、「結婚・離婚」(13.5%)となっています。国と比較すると、県の方が「結婚・離婚」が17.9ポイント、「親や子との同居・近居」が3.8ポイント、「職業上の理由」が1.4ポイントそれぞれ高い一方、「家族の移動に伴って」が7.0ポイント、「住宅を主とする理由」が6.5ポイントそれぞれ低くなっています。

図表 18 引越の理由



※国の調査・・・第7回人口移動調査(国立社会保障・人口問題研究所、平成23年7月実施、過去5年間に移動した人が対象、有効回収数:5,972)

※引越の理由は、国の調査に準じて19の選択肢を以下の7つに分類

- ①入学・進学・・・「入学・進学」
- ②職業上の理由・・・「就職」、「転職」、「転勤」、「家業継承」、「定年退職」
- ③住宅を主とする理由・・・「住宅事情」、「生活環境上の理由」、「通勤通学の便」
- ④親や子との同居・近居・・・「親と同居」、「親と近居」、「子と同居」、「子と近居」
- ⑤家族の移動に伴って・・・「家族の移動に伴って」
- ⑥結婚・離婚・・・「結婚」、「離婚」
- ⑦その他・・・「子育て環境上の理由」、「健康上の理由」、「その他」

その他

第4回みえ県民意識調査の集計結果をまとめた報告書は、5月15日から県ホームページでご覧いただけます。また平成27年5月20日から県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局等）に配置する予定です。

<http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/> （「みえ意識」で検索）

今後、集計結果をもとに戦略企画部において分析を行い、平成27年秋に分析結果をレポートにまとめ、公表する予定です。